

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol.17



DIAMアセットマネジメント株式会社 代表取締役社長

中島敬雄さん

なかしま・のりお

「私は銀行員として約40年のキャリアのほとんどで、マーケットを相手に仕事をしてきました。マーケットというものは森羅万象がかかわる世界。あらゆる領域の本を読むのは、仕事の一部分のようなものです。家で始末、たまに本を整理しない私と妻との戦争ですが(笑)」日本有数の資産運用会社、DIAMアセットマネジメントの社長に就任して1年余り。中島敬雄さんに選んでいただいた本は、ジャンルを分散させながら、テーマの相関に意味のある5冊となった。

中島敬雄さんがすすめる5冊

鎖国時代の「グローバリズム」

本は毎日と読むほど読みますが、そのほとんどは仕事に関連した本です。私の住む街では定期的に古本市が開かれていますが、そこは古書を探るのが好きなのですが、こちらは趣味の読書です。今回選んだ本は少々仕事寄りですが、そう堅苦しくないので、できるだけ新しい本をそろえました。最初の本は、島田荘司さんが写楽の正体に迫った「写楽閉じた国の幻」です。物々

本はそのような優れた知見をもつジャーナリストの一人、アナトール・カレツキーさんの「Capitalism 4.0」です。本書は資本主義の歴史を、ナポレオン戦争の頃から大恐慌までの荒々しい資本主義の時代、ケインズ論者が登場し政治が市場に開かれた時代、そしてサッチャー・レーガンの市場原理主義の時代の3つのフェーズに分けています。そして2008年の世界金融危機以降の状況を資本主義の終焉とはとらえず、第4フェーズの始まりと位置づけ、そのあり方を考察した力作です。

維新を成し遂げたのは勝海舟のリアリズム

最後に紹介するのは勝海舟の「水川清話」。1899(明治32年)まで生きてきた勝が晩年に語った奔放な談話集で、今回これだけが古い本ですが、私は繰り返し読んでいます。維新そして江戸選考という大事業をやったのは、結局勝だと私は考えます。これは私が金融が一番厳しかった頃に市場と向き合っていたことと関係すると思います。リーダーというのは偉そうに言うてもみんなに飯を食わせなくては行かない、はいはいもです。勝はそれをいかにやっていたか、その勝だから、江戸前の威勢はとてつと勝たか、江戶前の威勢はとてつと勝たか、一言に重みを感じます。例えば「世間は生きている、理屈は死んでいる」「主義に固定するな」「肝心なのは才より胆力」。

歴史的視点から深める情報の先にある「知見」

語は主人公が不可解な英文が書かれた浮世絵と出会うことから始まります。写楽とは誰かという謎解きとは別に、本書には江戸時代の人々が限られた海外の情報にいかにか耳をそばだてていたかが分かるエピソードがちりばめられていて、700ページ近い大作ですが一気に読破しました。江戸時代、日本と西洋との細い接点は、長崎出島でした。日本に出島のオランダ人商館員からグローバルな動向を聞きたいと思惑がある一方、オランダには別の思惑がありました。それは日本市場という宝物に他

変化する現実に対峙する新しい資本主義の時代

情報を誰かが手にすることが出来る現代は、知見で勝負する時代です。世界のジャーナリズムを見ても、フィナンシャル・タイムズもニューヨーク・タイムズも、一次情報よりも知見の割合が圧倒的に多いのです。次の

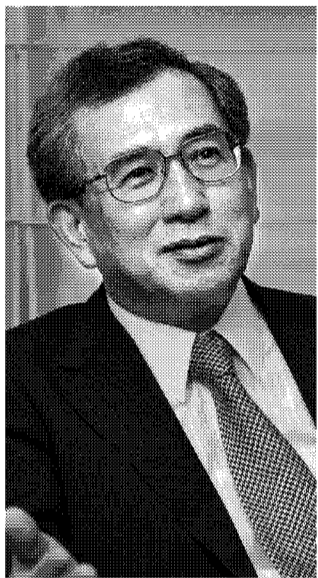
リーダーは常に「実家」であるべき

中島さんが旧興業に入社したのは1970年。翌年にニクソンショックがあり、73年には変動相場制が開始された。87年のブラックマンデー、日本のバブル崩壊、そして近年の世界金融危機、すべてをマーケットの真つた中で体験。幾度も危機を乗り越えられたのは、勝海舟が残した言葉の中にも特に好きな「実家」であることとを心掛けたからだという。

DIAMアセットマネジメントのトップに就任したのは2009年6月。同社の2本柱は、企業の年金資金の運用と個人投資家向けの投資信託の運用だ。マーケットに向き合うのは同じでも、「もうけても損しても我々の自己責任の銀行、お客様の大切な資金をお預かりする資産運用会社ではやはり気持ちが違います」と語る。

現代のリーダーは小粒という誤解

歴史の本は好きでも、過去の武将や元勳たちを引き合いに、「最近のリーダーは小粒になった」という意見には反発を感じるといいます。



1970年3月、一橋大学商学部卒。同年4月、日本興業銀行入行。98年11月ハーバード・ビジネス・スクール(AMP修了)。99年6月、同執行役員。2000年3月、常務執行役員市場ユニット長。02年4月に3行統合により、みずほコーポレート銀行常務執行役員就任。主にグローバルマーケットを担当。09年6月からDIAMアセットマネジメント 代表取締役社長。

「過去と現在では政治も経済も、世界の枠組みが違っています。今は誰もがグローバルマーケットを前提に生きているわけですが、そのリスクを肌で感じ、生きているのは大変なこと。それで現代のリーダーたちは、勇気をもって前に進んでいくのですから」

「『東京物語』や『居酒屋』、『秋刀魚の味』などの小津晩年の作品が生まれたのは昭和20年代後半から30年代半ば。今も驚かされるのは、終戦から20年余りの時代に小津が描ききった精神性の高さです。経済学的に言えば、やがて日本は農業の余力労働力が底をつき、人手不足と移行するル

「社長シリーズ」や「無責任男」の高度成長時代が訪れる。今の中国はどの辺りにあるのかに、金融マンとしては関心がありますね。あらゆる生活階層で日本人が連綿と受け継いできた小津の作品のよさが、資本主義が3・0・4・0と移行していく中で失われてしまわないことを願っています」

構成/松身茂 撮影/星野章 ■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、中島敬雄さんが語るリーダー論を紹介しています。http://adv.asahi.com

『写楽閉じた国の幻』(新潮社) 島田荘司・著 現代の物語と浮世絵師・東洲斎写楽が活躍した寛政の時代を行き交わしながら、謎に包まれたその正体を大胆に「推理」する。わずか10か月間の活躍。大胆なデフォルメ。同時代の絵師たちの不可解なまでの沈黙。その深層にあるものは?

『オランダ風説書』(中公新書) 松方冬子・著 『オランダ風説書』とは、鎖国時代にオランダ船が長崎に入港するたび、幕府が提出を求めた世界情勢の情報文書。フランス革命、アヘン戦争、ペリー来航…。海外情報のほほほ唯一の入手経路を巡り、日本とオランダの思惑が交錯する。

『Capitalism 4.0』(Public Affairs) Anatole Kaletsky・著 ロンドンタイムズ紙の名経済コラムニストが、資本主義の歴史を振り返り、世界金融危機以降の新たな資本主義を論じる。すべてを放任した市場主義でも政策主義でもなく、両者が現実に応じた弾力的な協調性を持つ重要性を説く。

『比較経済発展論-歴史的アプローチ-』(岩波書店) 斎藤修・著 近世から近代の生活水準の変化を、分業、市場の成長といった伝統的な経済史に位置づけ、諸地域の発展を日本を軸に比較する。地道な分析からこの数世紀をたどった著者は「経済発展を歴史的现象として理解したい思いがあった」という。

『水川清話 勝海舟伝』(角川ソフィア文庫) 勝海舟・著 勝部真長編 動乱の幕末と維新の時代を生き抜き、日清戦争まで見届けた勝海舟が、晩年、赤坂水川の自邸で自由奔放に語った談話を収録。西郷をはじめとする古今の人物評、大局をもった歴史観、誠実と胆力を求めた政治談義など多岐にわたる。

三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1 http://www.mikasashobo.co.jp 知的生きかた文庫の健康本ベストセラー!! 疲れない体をつくる免疫力 一生、薬がいらぬ体をつくり方 40代からの太らない体をつくり方 自助論 戦う自分をつくる 13の成功戦略 使う! 論語 20代でやっておきたいこと 脳にいいことだけを やりなさい! 速読が、こんなに簡単にできるの? 世界一わかりやすい速読の教科書 「速読耳」で今までの100倍成果が上がる! 20代、30代はもちろん、70代の方も、楽しくマスターできる! 「速読耳トレーニング」だから つらい訓練はいらない! まとまった時間も必要ない! 付属のCDを聴く! 「速読スピード」が脳に「インストール」される! 本を読むスピードが、3~10倍になる!! さらに、仕事の処理能力、企画力、集中力、記憶力も大幅UP!